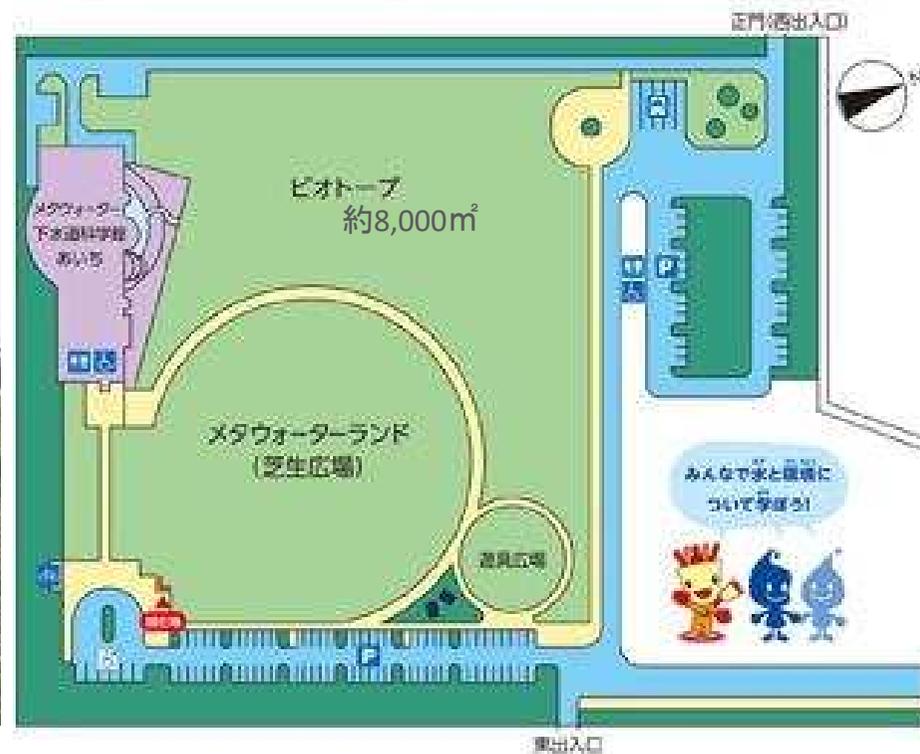


「メタウォーター下水道科学館あいち」における

写真で見る

ビオトープづくり と 子供たちの身近な自然体験



愛知県下水道科学館ビオトープの会「ビオピース」

会長 山田 真次

発表 山本 純

ビオトープの変化



2002年

水辺をつくり、
木を植え、
田畑を耕し、

生き物のすみかが
生まれ、身近な自然「日本の原風景」
を想わすたたまいに



現在



ビオトープの四季

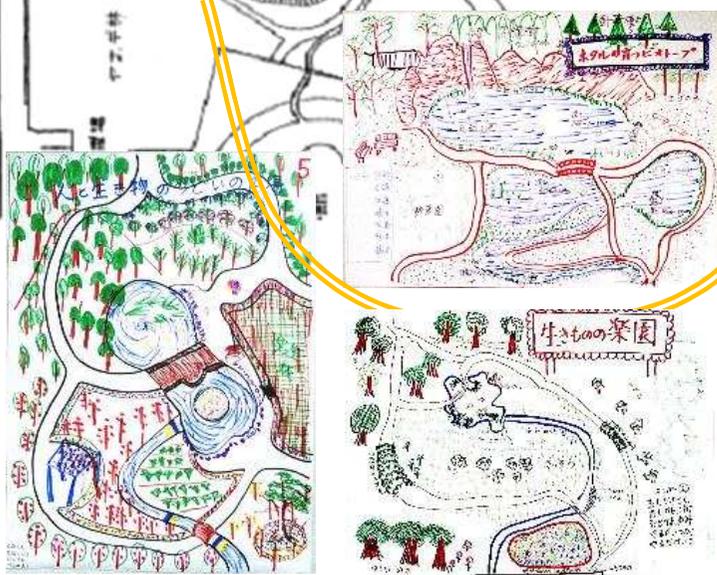
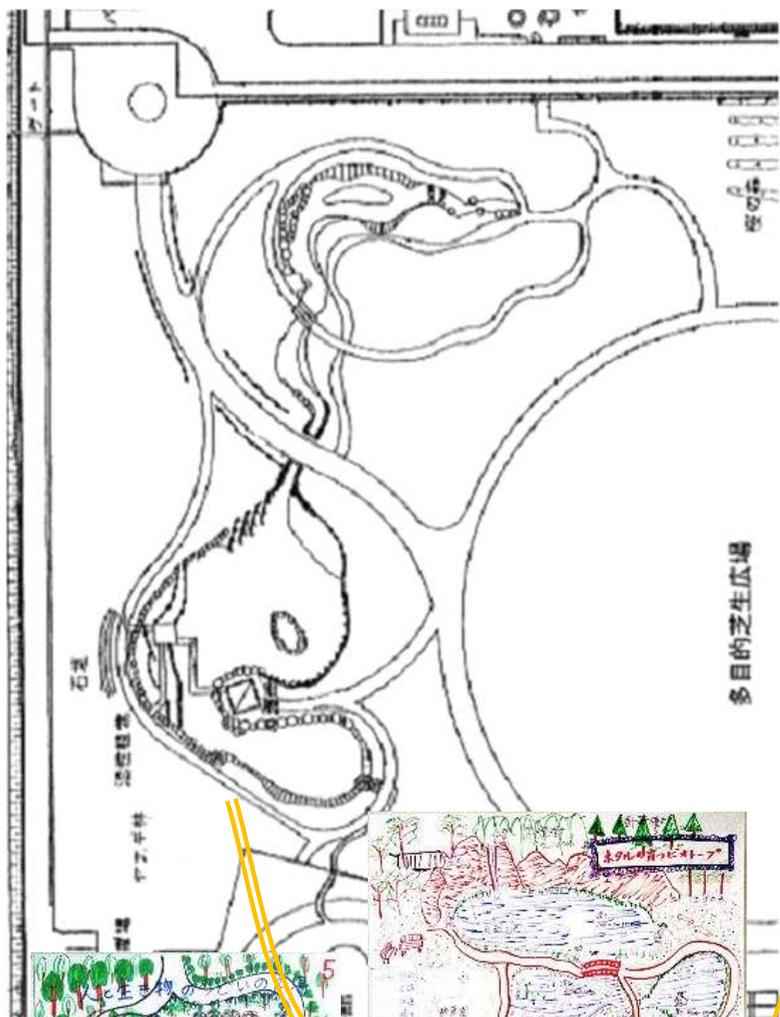


ビオトープの四季



設計の見直しから始まった

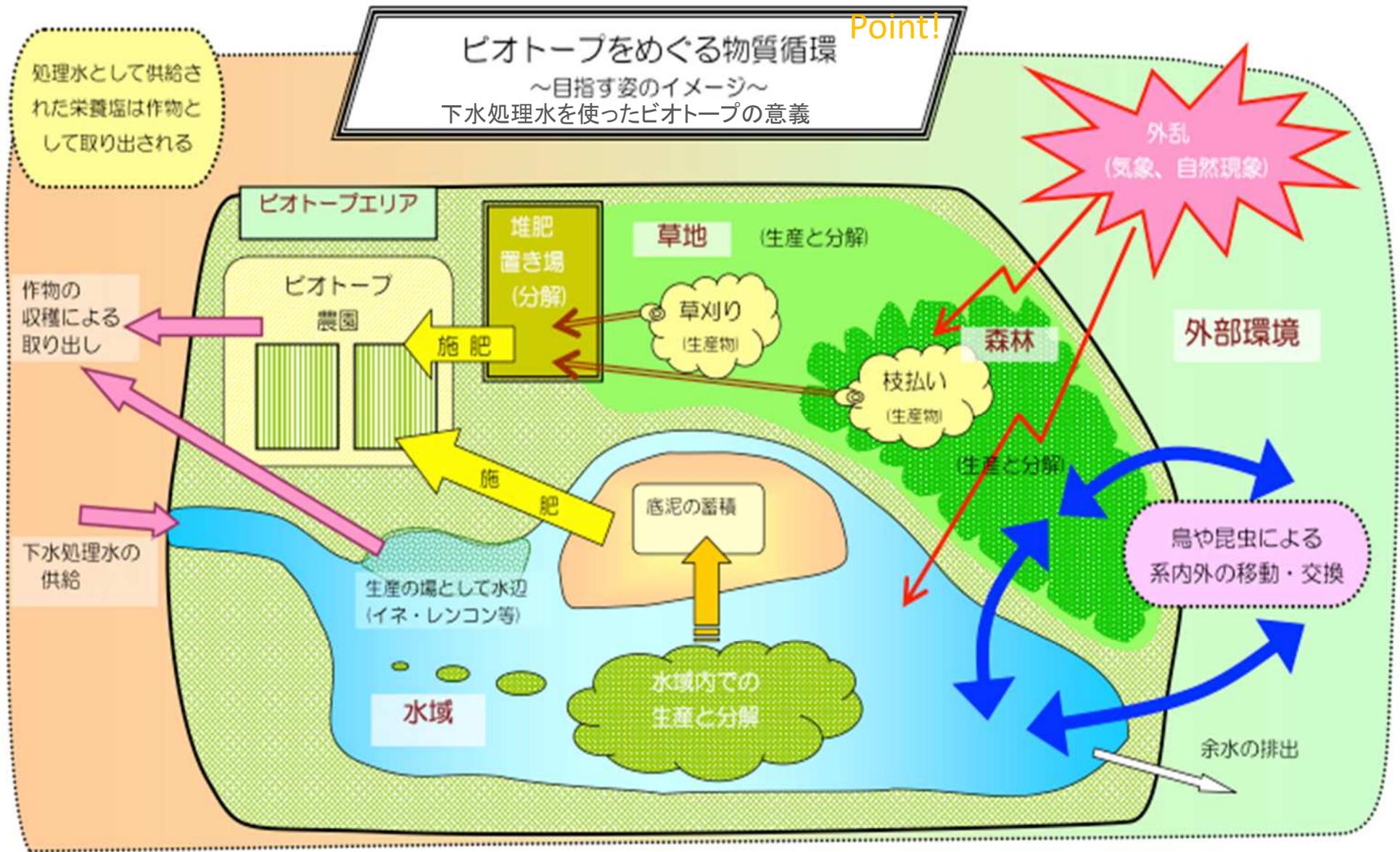
舗装園路を縦横に配置した公園的設計から



生き物のための空間へ

- ・ 北側に防風と目隠しを兼ねた雑木林
- ・ 生き物たちのための果樹、畑
- ・ 鳥たちが安心できる距離、隠れられる場所
- ・ いつもは生き物のために、時々子供たちのために
- ・ 入場ゲートの封鎖、葦による水質浄化
- ・ 生き物との触れ合い、落ち葉の堆肥利用、雑草エリア、
- ・ 観察小屋、橋、栈橋





- ① 人が使って汚した水を、下水道で浄化して還す
- ② 水に含まれる栄養分で多くの生き物が育ち、豊かな水辺がよみがえる
- ③ 堆肥や底泥を肥料にして作物を育てる
- ④ 恵みとなって私たちの暮らしに戻ってくる



初めに草が生え
ドングリを播き
苗植えた

畑をつくり
田を耕し

魚などを移した



ある時は土木・建築家、
" 林業・農家、漁師、
" 環境デザイナーであり、
人材育成家でもある。

..またある時は.. 様々な活動を通じて
何も無い造成地が豊かなビオトープとなった。



「稲沢鉄道クラブ」による鉄道も走る

ビオトープの生き物



益虫も害虫も



ビオトープの生き物



在来種も外来種も



ビオトープの生き物



姿を現すものも現わさぬものも



ためぐそ



一番人気



田んぼ(畑も)

ビオピースの活動



ビオトープの活動



出展

観察会



バイオピースの活動



シイタケ作り



間伐材で炭焼き



ビオピースの活動

自然素材の手作り工作



バイオピースの活動

葦の除去

池の栄養をたっぷり吸って育った葦。
工作に使ったり、焚火にしたり、
池から取り出すことで池の浄化装置になっている。



池の泥の運び出し

下水処理水中の栄養分は生き物を育て、
泥となって池に蓄積する。
冬場に泥を運び出し、水田や畑の肥料に。



ビオトープを食べる



ビオトープを食べる



子どもはいつだって元気



子どもは働くのが大好き





【成果】

- 里山的な「身近な自然」が生まれた。
ここでは四季の移り変わりを感じ、季節の恵みをいただくことができる。
- 子供たちがいききと走り回り、笑顔いっぱい、一生懸命に遊んでいる。
生き物に触れ、作物を育て、働く経験を通して学びの場ともなっている。
- 下水道の役割を知り、自然との共存を体感できる機会となっている。
- 世代を超えた交流が生まれている。
- そして、23年間活動を続けてこられたこと。

【課題】

- 老朽化施設の補修、更新
- スタッフの確保

よろしければ活動にご参加ください。



たくさんの出来事と記憶
..ここから未来へ

ご清聴ありがとうございました。